

令和5年度入学試験問題

受験上の注意

1. 監督の指示により、解答用紙に受験番号（算用数字）、氏名、フリガナ、解答する科目を記入し、受験番号、該当する試験日、解答する科目をマークしてください。記入については解答用紙の注意事項に従ってください。
2. 問題冊子の解答番号と解答用紙の番号を間違えないように注意してください。
3. 科目およびページは、次のとおりです。試験開始の合図があったら、まず受験する科目のページ数を確認してください。

科 目	ペ ー ジ
日 本 史	2～17
世 界 史	18～37
地 理	40～59
政治・経済	60～74

4. 受験票を試験時間中は、机上の受験番号の下に呈示しておいてください。
5. 質問、その他用件があるときは、手を上げて合図してください。
6. 試験時間中の退場は認めません。
7. 試験時間は60分です。
8. この問題冊子は持ち帰ってください。

開始の合図があるまで開かないでください

地 理

〔 I 〕 次の図1は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「山形北部」(2016年発行、原寸、一部改変)である。この地形図を見て、以下の問1～問7に答えなさい。解答番号は 1 ～ 8

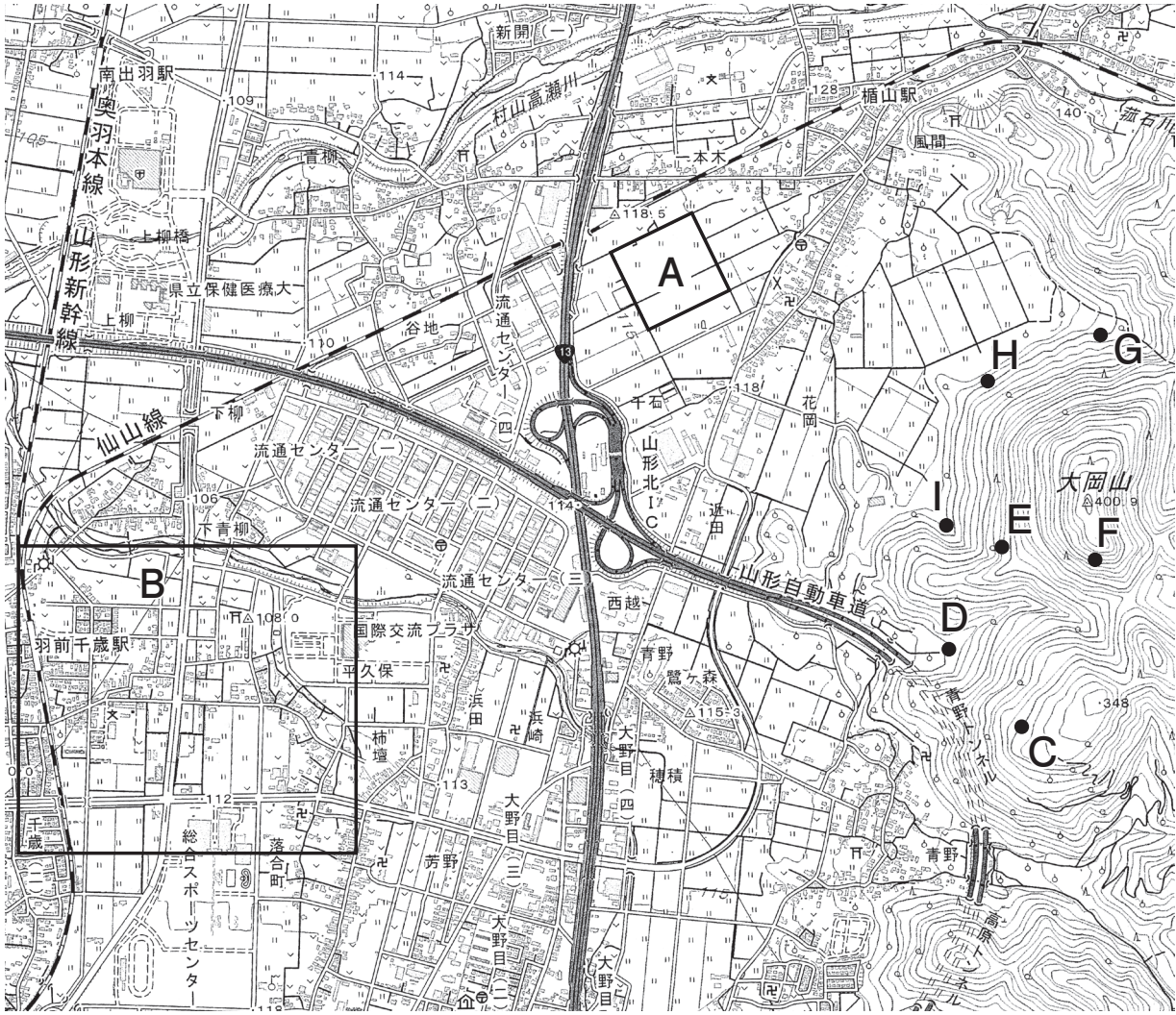


図1

問1 図1中の区画Aは、ほぼ正方形であり、地形図上で辺の長さは、およそ1cmであった。実際の距離にもっとも近いものを①～④から一つ選び、マークしなさい。

1

- ① 25m ② 250m ③ 2,500m ④ 25,000m

問2 図1中の区画Bにおいて見られない記号を①～④から一つ選び、マークしなさい。

2

- ① 神社 ② 小・中学校 ③ 発電所等 ④ 老人ホーム

問3 図1中の地点Cと地点Dとの標高差を地形図から読み取った。標高差にもっとも近いものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 **3**

- ① 90m ② 120m ③ 150m ④ 180m

問4 図1から読み取れる、地点Eに降った雨が流れる地点としてもっとも適切なものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 **4**

- ① 地点F ② 地点G ③ 地点H ④ 地点I

問5 図1から読み取れる、交通の特徴として誤っているものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 **5**

- ① 「羽前千歳駅」付近よりも南の区間は、JR線の複線以上となっている。
② 「奥羽本線（山形新幹線）」の全線は、鉄道橋（高架部）となっている。
③ 山形自動車道は、「流通センター」付近の区間で盛土されている。
④ 国道と山形自動車道が交わる付近には、インターチェンジが設置されている。

問6 次の文は、図1中の「仙山線」の「楯山駅」から「羽前千歳駅」までの鉄道沿いの地形や土地利用の特徴を、地形図から読み取ったものである。説明としてもっとも適切なものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 6

- ①「楯山駅」と「羽前千歳駅」との高低差は、約50mとなっている。
- ②「楯山駅」付近よりも「羽前千歳駅」付近の標高が高くなっている。
- ③「楯山駅」に近い線路付近には、茶畑がある。
- ④「仙山線」は、国道13号と交差する場所でトンネルとなっている。

問7 次の図2は、図1とほぼ同じ範囲の1931年測量2万5千分の1地形図「山形北部」と「山寺」（いずれも原寸、一部改変）である。図を見て、以下のAとBの間に答えなさい。

A. 図2を見て、土地利用の特徴としてもっとも適切なものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 7

- ①「風間」集落から「下柳」集落へ向かい、標高が高くなっている。
- ②「風間」集落では、尾根上の道路に沿って家屋が分布している。
- ③「楯山村」から「千歳村」までの大部分は畑として利用されている。
- ④「谷地」集落では、扇状地の中に家屋が分布している。

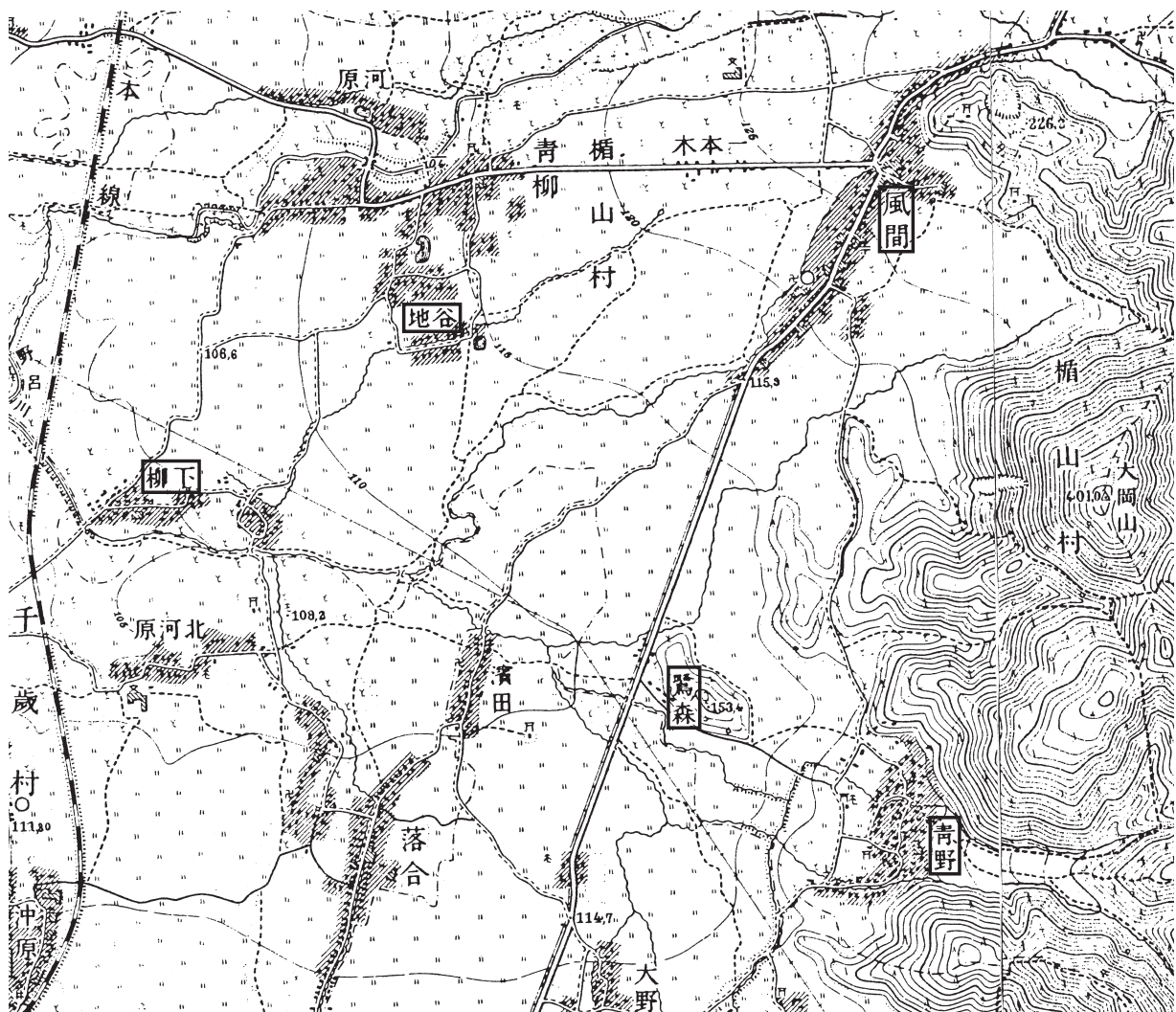


図2

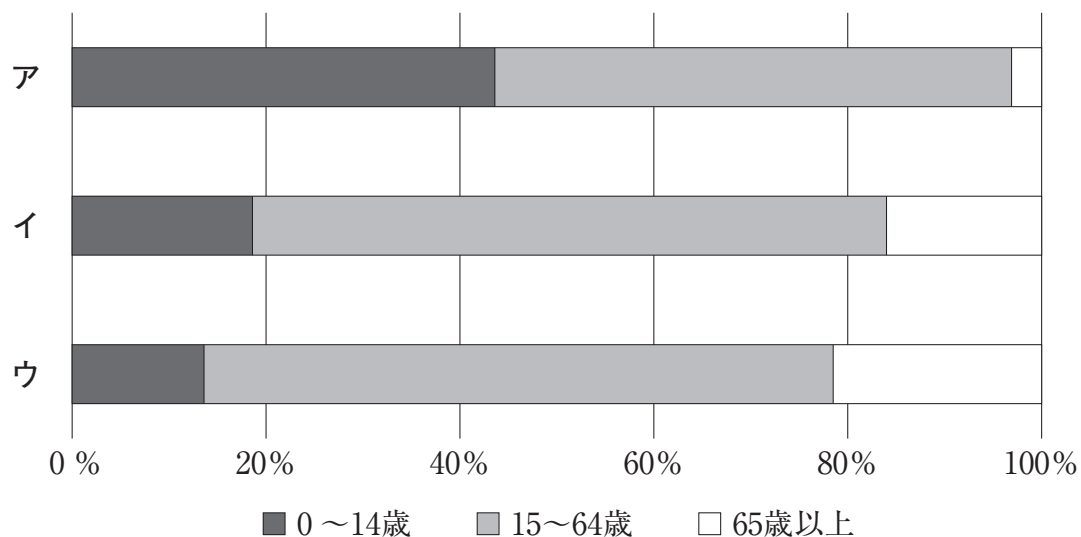
*横書きの地名は、右から左に向かって読む。

B. 図1と図2を見て、土地利用の変化の説明として誤っているものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 8

- ① 「谷地」集落の付近を通過して「仙山線」が開通した。
- ② 「青野」集落の西側に「山形自動車道」が開通した。
- ③ 「下柳」の東側に「流通センター」が建設された。
- ④ 「鷺森」が開発され、住宅地となった。

〔Ⅱ〕 人口，都市と村落に関する以下の問1～問8に答えなさい。解答番号は
9～16

問1 図1のア～ウは，アメリカ合衆国，タンザニア，ドイツにおける全人口に占める年齢別の人口割合（2019年。アメリカ合衆国のみ2018年）を示したものである。アメリカ合衆国，タンザニア，ドイツとア～ウの組み合わせとして，もっとも適切なものを①～⑥から一つ選び，マークしなさい。9



（『世界国勢図会 2021/2022』により作成）

図1

	①	②	③	④	⑤	⑥
アメリカ合衆国	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
タンザニア	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
ドイツ	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

問2 表1のカ～クは、アメリカ合衆国、日本、マレーシアへの国際移住者数の推移と1人当たり国民総所得（2019年）を示したものである。アメリカ合衆国、日本、マレーシアとカ～クの組み合わせとして、もっとも適切なものを①～⑥から一つ選び、マークしなさい。なお、国際移住者数はアメリカ合衆国の値については外国生まれの人口、日本の値については外国人人口、マレーシアの値については外国生まれの人口と難民を含んでいる。 10

表1

	国際移住者数（千人）			1人当たり国民総所得 （百万ドル）
	2000年	2010年	2020年	
カ	34,814	44,184	50,633	65,897
キ	1,686	2,134	2,771	41,513
ク	1,464	2,417	3,477	11,110

（『世界国勢図会 2021/2022』により作成）

	①	②	③	④	⑤	⑥
アメリカ合衆国	カ	カ	キ	キ	ク	ク
日本	キ	ク	カ	ク	カ	キ
マレーシア	ク	キ	ク	カ	キ	カ

問3 表2のサ～スは、イタリア、韓国、ラオス（2015年）の就学率と日本（2014年）の就学率を示したものである。イタリア、韓国、ラオスとサ～スの組み合わせとして、もっとも適切なものを①～⑥から一つ選び、マークしなさい。なお、100%を超える値は、年齢にかかわらず実際に就学している者の数を当該就学年齢層の人口で除したもので、就学年齢層を上下する児童・生徒がいるためである。 11

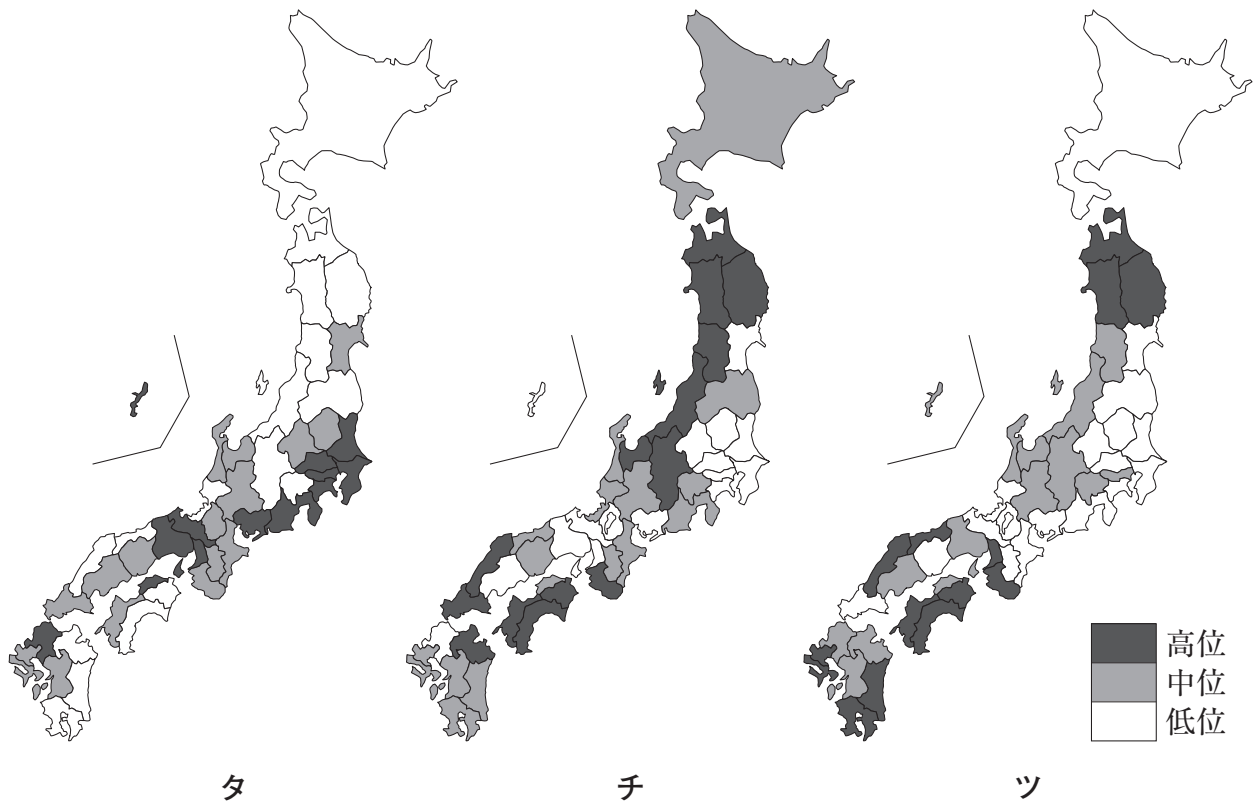
表2 (％)

	初等	中等	高等
サ	111	62	17
シ	101	103	62
日本	101	102	63
ス	99	99	93

(『世界国勢図会 2017/2018』により作成)

	①	②	③	④	⑤	⑥
イタリア	サ	サ	シ	シ	ス	ス
韓国	シ	ス	サ	ス	サ	シ
ラオス	ス	シ	ス	サ	シ	サ

問4 図2のタ～ツは、人口10万人当たりの医療・福祉サービス事業所数、人口密度、65歳以上人口の割合のいずれかを示したものである。人口10万人当たりの医療・福祉サービス事業所数、人口密度、65歳以上人口の割合とタ～ツの組み合わせとして、もっとも適切なものを①～⑥から一つ選び、マークしなさい。 12



(2015年国勢調査および2016年経済センサスにより作成)

図2

	①	②	③	④	⑤	⑥
人口10万人当たりの 医療・福祉サービス事業所数	タ	タ	チ	チ	ツ	ツ
人口密度	チ	ツ	タ	ツ	タ	チ
65歳以上人口の割合	ツ	チ	ツ	タ	チ	タ

問5 図3のナ～ヌは、散村、環濠集落、路村のいずれかである。図ナ～ヌと散村、環濠集落、路村の組み合わせとして、もっとも適切なものを①～⑥から一つ選び、マークしなさい。なお、いずれも地理院地図の一部である。 **13**



図3

	①	②	③	④	⑤	⑥
散村	ナ	ナ	ニ	ニ	ヌ	ヌ
環濠集落	ニ	ヌ	ナ	ヌ	ナ	ニ
路村	ヌ	ニ	ヌ	ナ	ニ	ナ

問6 外敵からの防御機能の強化を目的の一つとして成立した集落として、誤っているものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 **14**

- ① 円村 ② 丘上集落 ③ 広場村 ④ 輪中集落

問7 現代の都市でみられる現象について説明した文として、もっとも適切なものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 **15**

- ① 高級住宅地区では、ジェントリフィケーションが起こりやすい。
- ② スプロール現象は卸売業・軽工業地区で起こりやすい。
- ③ 卸売業・軽工業地区では、都市再開発が行われやすい。
- ④ 中心業務地区では、低層の建物の割合が高い。

問8 都市問題の解消に向けた対策について説明した文として、誤っているものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 **16**

- ① 自家用車の利用を促進するために、ロードプライシングが実施されている。
- ② 都心部で公共交通機関の利便性を高めるために、バス専用レーンが設置されている。
- ③ 大都市への一極集中を緩和するために、首都を移転した国もある。
- ④ ヒートアイランド現象の緩和に向けた対策として壁面緑化が取り組まれている。

〔Ⅲ〕 ドナウ川本流と本流に接する国境を描いた図1を見て、ドナウ川および流域の国々に関する以下の問1～問3に答えなさい。解答番号は 17 ～ 23

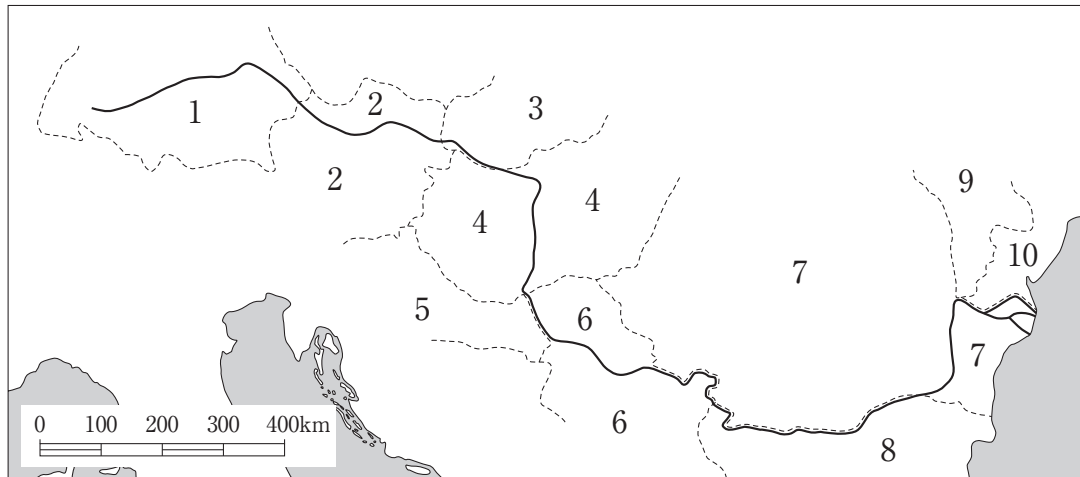


図1

問1 ドナウ川および流域の国々について述べた文の下線部に関する以下のA～Eの問に答えなさい。

ドナウ川は^アシュヴァルツヴァルトに源流を持ち黒海に注ぐ、全長およそ3000kmの河川である。^イ本流が流れる国が10カ国を数える国際河川で、^ウ河口から2000km以上の区間で大型客船のほかタンカーや貨物船などの航行が可能である。川に沿った平原では^エ農業が盛んである。

A. 下線アに関連して、ドナウ川本流に沿った正しい地名の配列を①~⑥から一つ選び、マークしなさい。 17

- ① シュヴァルツヴァルト→ハンガリー平原→メイン・ドナウ運河→ルーマニア平原→ドナウ三角州
- ② シュヴァルツヴァルト→ハンガリー平原→ルーマニア平原→メイン・ドナウ運河→ドナウ三角州
- ③ シュヴァルツヴァルト→メイン・ドナウ運河→ハンガリー平原→ルーマニア平原→ドナウ三角州
- ④ シュヴァルツヴァルト→メイン・ドナウ運河→ルーマニア平原→ハンガリー平原→ドナウ三角州
- ⑤ シュヴァルツヴァルト→ルーマニア平原→ハンガリー平原→メイン・ドナウ運河→ドナウ三角州
- ⑥ シュヴァルツヴァルト→ルーマニア平原→メイン・ドナウ運河→ハンガリー平原→ドナウ三角州

B. 次の文 a～c は、下線イに含まれるオーストリア、ハンガリー、ルーマニアの国の特徴を述べたものである。国名と a～c の組み合わせとして正しいものを①～⑥から一つ選び、マークしなさい。 **18**

- a ほかのヨーロッパの国とは言語系統が異なる。ドナウ川の両岸にある 2 つの地域が合わさってできた首都を持つ。
- b ロマンズ語系の言語を話す人が大半を占め、キリスト教のうち正教（会）を信仰している人が多い。
- c ゲルマン語系の言語を公用語とし、カトリックを信仰している人が多い。

	①	②	③	④	⑤	⑥
オーストリア	a	a	b	b	c	c
ハンガリー	b	c	a	c	a	b
ルーマニア	c	b	c	a	b	a

C. 次の文は下線イのうちのある国の農業や農産物加工品の特徴を述べたものである。この国を①～⑤から一つ選び、マークしなさい。 **19**

この国は他のドナウ川沿岸の国と同様にワインとビールの生産が盛んだが、小麦とひまわりの生産が沿岸国の中ではもっとも多い。ひまわりからつくられるひまわり油や小麦はこの国の重要な輸出品で、ひまわり油は日本にも輸出されている。

- ① ウクライナ ② オーストリア ③ セルビア ④ モルドバ
- ⑤ ルーマニア

D. 下線ウに関連して、ドナウ川沿岸のある港湾都市で撮られた次の写真1～3を見て推測できるものとして誤っているものを①～④から一つ選び、マークしなさい。
なお、写真2は港に停泊しているオランダのクルーズ船である。 20



写真1



写真2



写真3

- ① 川沿いに重化学工業地域が形成されている。
- ② 歴史的建造物が見られる広場が現在も交通の結節点となっている。
- ③ ドナウ川は運河によってライン川とつながっている。
- ④ この都市と他の都市を結ぶ交通は主として船である。

E. 下線工に関連して、ドナウ川本流沿岸の平原内で行われている農業の形態としてもっとも適切なものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 **21**

- ① 混合農業 ② 集約的畑作農業 ③ 地中海式農業 ④ 酪農

問2 ヨーロッパはEUへの加盟やシェンゲン協定によって国境が無くなったとも言われている。日本国籍のカオルさんがドナウ川地域を旅行した。日本からオーストリアへ飛行機で飛び、その後、スロバキア、ハンガリー、ルーマニアへ行き、ハンガリーからオーストリアへと戻った。国境通過時にパスポートチェックが行われなかった経路として正しい組み合わせを①～⑥から一つ選び、マークしなさい。なお、カオルさんが行ったヨーロッパの国はすべてEUに加盟している。シェンゲン協定に加盟しているのは、オーストリア、スロバキア、ハンガリーである。また、難民や感染症などの問題がなく、国境管理が通常通り行われている場合を想定して答えなさい。 **22**

カ 日本から直行の飛行機でウィーンに着いたとき

キ ウィーンからブラチスラバまで国際バス路線で移動したとき

ク ブダペストからブカレストまで国際列車で移動したとき

ケ ブダペストからウィーンへドナウ川航路を使って移動したとき

①	②	③	④	⑤	⑥
カ, キ	カ, ク	カ, ケ	キ, ク	キ, ケ	ク, ケ

問3 ドナウ川本流が流れる10カ国に関するデータを上流から順番に並べた。次の図2は1人当たりの国民総所得（2019年）を、図3は1人当たりの年間エネルギー供給量（石油換算、トン、2018年）を示している。これらの図から考えられることを述べた①～④の文のうち誤っているものを一つ選び、マークしなさい。 **23**

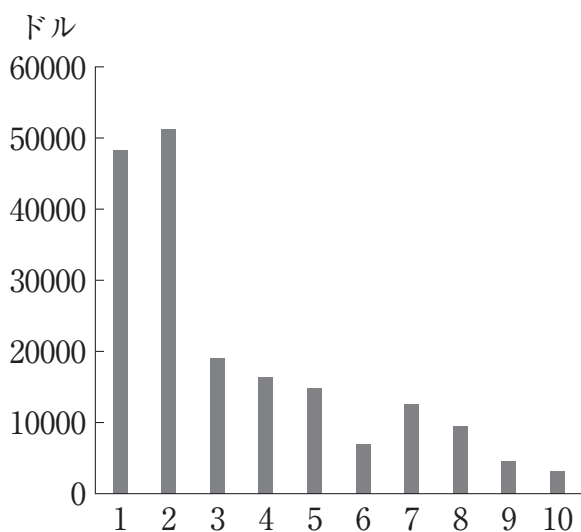


図2

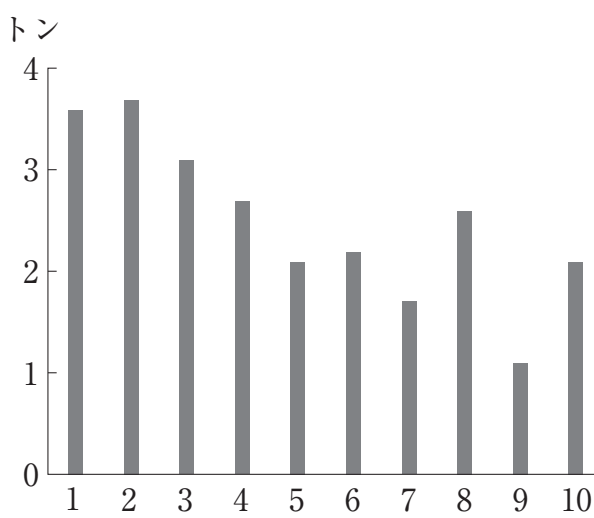


図3

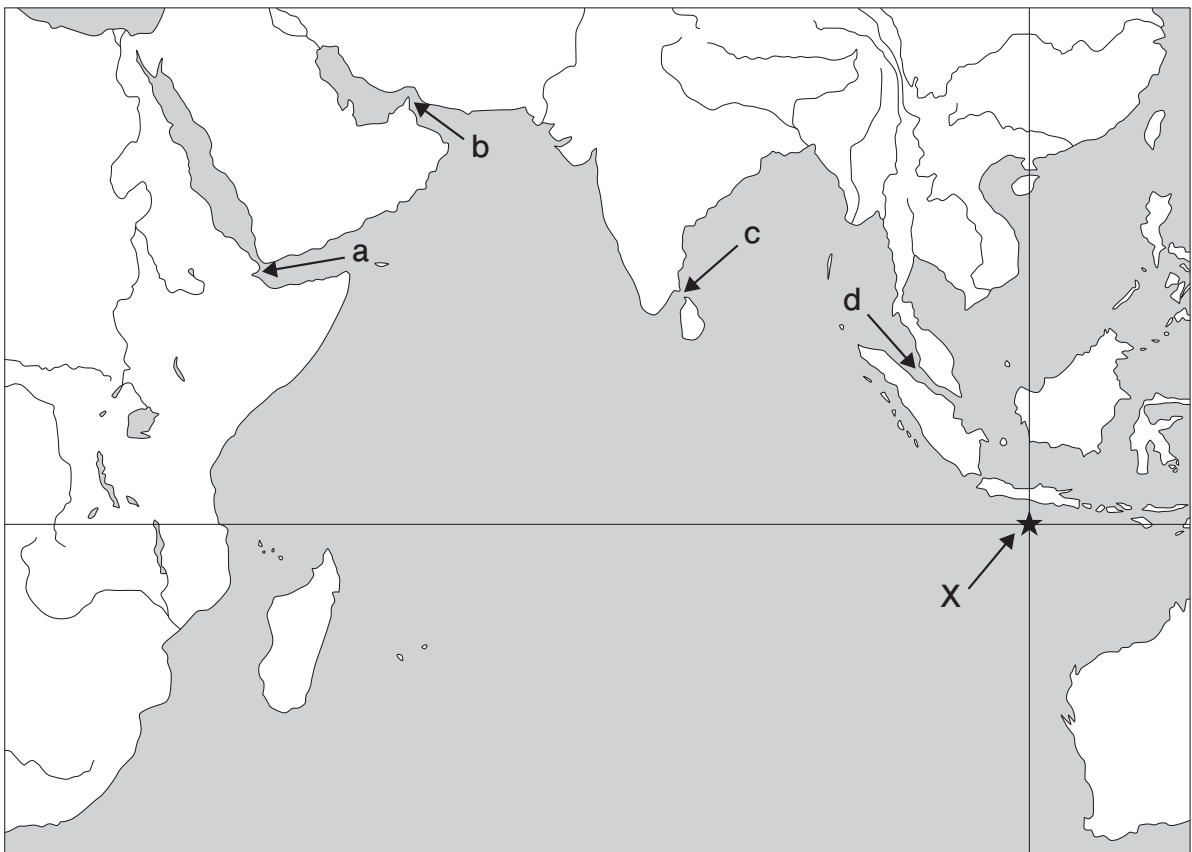
(いずれの図も『データブック オブ・ザ・ワールド 2022年版』により作成)

*数字は図1中に示した国の番号と同じである。

- ① 図2の値が大きい上流2カ国と残り8カ国の境目が明瞭で、西ヨーロッパと旧社会主義国の東ヨーロッパの境である。
- ② 図2で下流へ行くほど下がる傾向があるのは、ヨーロッパの中でも西寄りと東寄りでは経済格差があることを示している。
- ③ 1人当たりの年間エネルギー供給量は人口が多い国ほど多くなる傾向がある。
- ④ 大まかにみると1人当たりの年間エネルギー供給量が多い国ほど、1人当たりの国民総所得が高くなっているが、逆転している国もある。

〔Ⅳ〕 次の図を参考にして、インド洋（縁海と湾を含む。以下、同様）とその沿岸地域に関する以下の問1～問3に答えなさい。なお、縁海とは大陸の外縁にあって、列島や半島で囲まれた部分的に閉じた海のことを指す。解答番号は **24** ～

31



問1 インド洋と沿岸地域の位置と自然環境について、以下のA～Dの間に答えなさい。

A. 図中にある地点Xの緯度と経度の組み合わせとして正しいものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 **24**

	①	②	③	④
緯度	0度（赤道）	0度（赤道）	南緯10度	南緯10度
経度	東経90度	東経110度	東経90度	東経110度

B. 図中にある地点X付近では地震が多発している。X付近の海底でみられる地形を説明した文として正しいものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 **25**

- ① 狭まるプレート境界にあり、二つのプレートの衝突により海底火山が形成されている。
- ② 狭まるプレート境界にあり、南側のプレートが北側のプレートに沈み込み、海溝が形成されている。
- ③ 広がるプレート境界にあり、プレートが裂けて海溝が形成されている。
- ④ 広がるプレート境界にあり、地球内部からマグマが上昇し海底山脈が形成されている。

C. 次の5つの河川のうちインド洋に注いでいない河川を①～⑤から一つ選び、マークしなさい。 **26**

- ① インダス川 ② ガンジス川 ③ コンゴ川 ④ ザンベジ川
- ⑤ シャトルアラブ川

D. 図中のa～dは、インド洋に位置する主な海峡である。海峡名と位置の組み合わせとして正しいものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 **27**

	①	②	③	④
海峡名	スダ	ポーク	ホルムズ	マラッカ
位置	a	b	c	d

問2 次のA～Cの各文に当てはまる国名を、語群の①～⑩からそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A. この国では、サンゴ礁でできた約1,200の島々が、南北約800kmにわたって散在している。平均標高は約1m、最高標高でも3mたらずである。近年では、海面上昇によって海岸侵食が激しく、国土が水没する危険性が出ている。 **28**

B. この国では、就業人口の約半数が第一次産業に従事しているが、1990年代以降にICT（情報通信技術）産業が急速に発達し、同産業に従事する人が増えている。また、国内の多くの都市にソフトウェアテクノロジーパークが整備され、ソフトウェア産業の成長がみられる。 **29**

C. この国では、多数派の仏教徒と少数派のヒन्दゥー教徒との間に根強い対立がみられる。二つの教徒の居住地は分かれ、少数派のヒन्दゥー教徒は国土の北部に多く住んでいる。 **30**

[語群]

- | | | | |
|---------|---------|-----------|----------|
| ① イラン | ② インド | ③ スリランカ | ④ セーシェル |
| ⑤ タンザニア | ⑥ パキスタン | ⑦ バングラデシュ | ⑧ マダガスカル |
| ⑨ ミャンマー | ⑩ モルディブ | | |

問3 次の表は、インド洋に面する国々のうち、インドネシア、オーストラリア、パキスタン、マレーシアの4カ国の輸出上位5品目とそれらが輸出総額に占める割合(2019年)、輸出総額(2019年)を示したものである。表中で、インドネシアに当てはまるものを①～④から一つ選び、マークしなさい。 **31**

表 (単位 割合：%，輸出総額：百万ドル)

順位	①		②		③		④	
	1位	鉄鉱石	25.0	石炭	13.0	繊維品	32.4	機械類
2位	石炭	16.6	パーム油	8.8	衣類	26.7	石油製品	7.0
3位	金(非貨幣用)	6.1	機械類	8.3	米	9.6	液化天然ガス	4.2
4位	肉類	4.3	衣類	5.1	野菜・果実	3.0	精密機械	3.8
5位	機械類	3.1	自動車	4.8	魚介類	2.0	パーム油	3.5
輸出総額	266,377		167,003		23,749		238,089	

(『世界国勢図会 2021/22年版』により作成)